

一般社団法人宮城県歯科技工士会 生涯研修自由課程

2/
8^{PM}

ウェビナー開催

定員60名

13:00~16:00

演題: 災害時歯科医療に求められる歯科技工士の役割と実践

～いま備えておくべき知識・技術・体制づくり～



高山幸宏先生

所属: 広島県歯科技工士会 広島支部
略歴: 2010年 広島大学歯学部
口腔保健学科口腔保健工学専攻 卒業
2012年 広島大学大学院医歯薬保健学研究科
口腔健康科学修士課程 卒業
2021年 広島大学大学院医歯薬保健学研究科
口腔健康科学専攻博士課程 卒業
2016年～現在 広島大学病院診療支援部歯科部門
歯科中央技工室 在籍

近年、日本各地で大規模自然災害が頻発し、被災地における医療
保健支援体制の確立は喫緊の課題となっている。歯科領域では、
2011年の東日本大震災を契機として日本歯科医師会を中心に
「日本災害歯科支援チーム(JDAT: Japan Dental Alliance Team)」が設立され、
災害時の歯科医療提供体制の整備が全国的に進められてきた。最新版の
災害救助法施行令においても、医療・福祉分野における災害時支援の対象として
「歯科技工士」が明確に位置づけられた。しかしながら、実際の被災地支援に
歯科技工士が参画する機会は依然として多くはないのが現状である。避難所では
義歯の紛失や破損による咀嚼・嚥下機能の低下が全身状態の悪化につながる
ケースも報告されており、歯科技工士が担う専門的支援は、被災者の生活を
支えるうえで極めて重要であると考えられる。

本講演では、まず災害歯科医療支援チームに歯科技工士として参画する際に
最低限理解しておくべき「知識」として、「災害歯科医療の基礎知識」について
概説する。続いて、支援活動に必要な「技術」の一つとして、災害時用即時
義歯製作方法について、広島県歯科技工士会が策定した「災害時用即時義歯
マニュアル」を元に紹介する。

さらに、こうした支援を迅速かつ円滑に行うために欠かせない「体制づくり」
について、全国の歯科技工士会を対象に実施した「災害時対応体制に関する
調査研究」の結果を踏まえ、都道府県歯科技工士会による組織的運用や、
歯科医師会・歯科衛生士会をはじめとする関連職種との事前連携の在り方
について考察する。本講演が、災害時に歯科技工士としてどのように備え、
どのように力を発揮できるのかを考える一つのきっかけとなり、平時からの
継続的な準備の重要性を共有する場となれば幸いです。

演題: 働く環境改善のための労務管理と基礎知識

～労使間の信頼関係を築くために～



藤王千春先生

所属: 日本歯科技工士会理事
日本歯科技工士会歯科技工士労務対策委員会副委員長

【略歴】

1986年 北海道歯科技術専門学校卒業
1986年 帯広市内の歯科医院に就職
2010年 同院内ラボにてフリーランス
2020年 医いのうえ歯科医院 勤務
現在に至る

政府主導による「働き方改革」の実現に向けて多くの職種の働き方に注目が集まる中、私
たち歯科技工士も働き方を見直し、労働環境の整備が必要な時代となった。2019年4月1
日に働き方改革関連法案が本格施行され、歯科技工士業界も時代に即した働き方が確立
されていかなければ、今後も歯科技工士を目指す人は増えない状況が懸念され、既存の
歯科技工士も働き方に関する法律を遵守する必要がある社会となっている。

労働力不足を解消しワーク・ライフ・バランスの実現に向けた「36協定」の電子申請への可
能性、「同一労働同一賃金」のガイドライン、労働者の健康のための努力義務化された「勤
務間インターバル制度」の導入、有給休暇の取得促進、育児介護休業法の改正による産
後パパ育休の活用等について、歯科技工士労務対策委員会が必要性の高い最新内容を
ポイント押さえて説明いたします。

本講演を通じて労使間の信頼関係を確認しながら、目指すべき歯科技工士の働き方の在
り方を皆さんと考えていただければと思います。

ZoomミーティングID
845 2722 1432
パスコード
123456

受講希望者はお時間になりましたら
左記のzoomミーティングIDからお入りください
その際、お名前に下記の表記をお願いいたします
①氏 名の表示
②会 員か非会員かの表示 例) 平栗布海(会員)

お問合せe-mail
fumi19650720@icloud.com
学術担当 平栗